

【報道関係各位】

2018年11月20日
一般財団法人 日本気象協会

日本気象協会、今年も「花粉予測のプロ」として 花粉の飛散傾向の確認・検討を行う研究会を全国各地で開催 ～花粉の原因となる花芽を定点で観測する現地調査も実施～

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、会長：石川 裕己、以下「日本気象協会」）は「花粉予測のプロ」として、全国各地の研究会や協力機関と連携し、花粉飛散予測の精度向上に取り組んでいます。今年も、スギやヒノキなどの植物に詳しい「植物のプロ」や花粉の研究に長年携わっている学識者の協力を得て、花粉に関する最新の調査・研究をもとに、2019年春の花粉の飛散傾向を確認・検討する研究会を各地で開催します。

2018年11月23日（金）に「近畿花粉研究会」を日本気象協会 関西支社で、12月4日（火）には「第32回 関東甲信越花粉症研究会」を日本気象協会 東京本社にて開催



昨年の研究会の様子（左：関西支社、右：東京本社にて開催）

日本気象協会の花粉飛散予測は、前シーズンの花粉飛散結果や今後の気温予測などの気象データをもとに、全国各地の花粉研究会や協力機関からの情報、花芽の現地調査の結果などをふまえて予測しています。2018年10月4日（木）に行った「2019年春の花粉飛散予測（第1報）」では、2019年春の花粉飛散に関して「多かった前シーズン」ほどではないが、飛散量は全国的に例年並みかやや多い」と発表しています。

花粉の元となる植物の育成には、前年夏の気象条件が大きく影響します。このため、日本気象協会の花芽調査では、スギやヒノキなどの植物に詳しい「植物のプロ」や、花粉の研究に長年携わっている学識者の協力を得て、その土地の気候や地形を知る「気象のプロ」による定点観測を重視しています。毎年行っている現地調査を今年も各地で実施します。



昨年の現地調査の様子



<日本気象協会の花粉飛散予測とは>

日本気象協会は1990年からスギ花粉の飛散予測を発表しています。日本気象協会の花粉飛散予測は、前シーズンの花粉飛散結果や今後の気温予測などの気象データをもとに、全国各地の花粉研究会や協力機関からの情報、花芽の現地調査の結果などをふまえて予測しています。

花粉の元となる植物の育成には、前年夏（6月～8月）の気象条件が大きく影響します。気温が高く、日照時間が多く、雨の少ない夏は花芽が多く形成され、翌春の花粉の飛散数が多くなるといわれています。花芽は夏の早い段階で育つため、日本気象協会の花粉飛散予測では6月と7月の気象条件を特に重視して予測を発表しています。